



臨床医学

形成外科学講座

講座のアピールポイント

獨協医科大学形成外科は2006年に病院診療科として診療を開始し、その後2008年に講座となりました。形成外科は体表あるいは体表に近い身体各部の先天的および後天的疾患による変形に対して、おもに手術的治療によって形態および機能の修復をはかる外科学の一分野であり、幅広い分野となります。なかでも、顔面神経麻痺の形成外科的治療、小耳症に対する耳介形成手術については世界的レベルの実績を持っており、この分野では遠方からも患者様がいらっしゃるセンターとなっております。他にも乳癌・頭頸部癌などの悪性腫瘍切除後の変形に対する治療、口唇口蓋裂の一次形成手術あるいは瘢痕や変形に対する二次形成手術、耳介や顔面のその他の先天的疾患に対する形成手術、手指・足趾の先天的疾患に対する形成手術、顔面や手の外傷（顔面骨骨折や切断指など）、熱傷および熱傷瘢痕拘縮、皮膚・軟部組織腫瘍や耳下腺腫瘍に対する治療などに対しても積極的に取り組んでいます。また学生や研修医の教育、学会発表や学術論文をはじめとする研究活動にも積極的に取り組んでいます。関係各科の諸先生方およびコメディカルの方々、また地域住民の皆様方にご指導ご鞭撻をいただきながら、北関東随一の規模と内容を持つ形成外科学教室となるべく日々邁進しております。

講座研究紹介

当講座では創傷治癒(キズが治るメカニズム)に関する研究、培養皮膚・軟骨組織に関する研究(自身の皮膚・軟骨を採取・培養し、移植することで損傷した組織を作りなおす)、顔面神経麻痺に対する手術術式の開発に関する研究など、多岐にわたり研究を行っています。特に小耳症に対する手術術式の開発に関する研究では、形成した耳介と同じ位置に外耳道を造設するという日本でも限られた施設でしか行っていない術式を年間多数おこなっていることもあり、よりよい術式を日本のみならず世界へ発信しつづけています。